

|         |  |
|---------|--|
| 氏名      | 三宅正展   |
| 授与した学位  | 博士   |
| 専攻分野の名称 | 医学   |
| 学位授与番号  | 博乙第3743号   |
| 学位授与の日付 | 平成14年6月30日   |
| 学位授与の要件 | 博士の学位論文提出者<br>(学位規則第4条第2項該当)                       |
| 学位論文題目  | インターフェロン治療後C型慢性肝炎患者の長期予後-ウイルス学的著効例, 生化学的著効例と無効例の比較 |
| 論文審査委員  | 教授 加藤 宣之 教授 小出 典男 教授 山田 雅夫                         |

#### 学位論文内容の要旨

インターフェロン (IFN) 治療後の生化学的持続著効群の予後を調査するために 252 名の IFN 治療後の C 型慢性肝炎症例について調査した。症例を、A 群：ウイルス学的持続著効群 (n=84)、B 群：生化学的持続著効かつウイルス学的無効群 (n=43)、C 群：不完全著効群 (n=64)、D 群：無効群 (n=61) の 4 群に分類し、数種の肝機能検査値を IFN 治療直前と観察期間 (4.2±1.6 年, 平均±標準偏差) 後で調査し、その値を比較した。A 群では、コリンエステラーゼ、アルブミン、 $\gamma$ -グロブリン、ZTT、血小板、KICG 値が最終観察時において有意に ( $p < 0.05$ ) 改善していたが、D 群においては有意に ( $p < 0.05$ ) 悪化しており、B 群においては変化がなかった。肝癌発生率は D 群で B 群より有意に高かった。 ( $P < 0.007$ ; Kaplan-Meier 法, log-rank test)。年齢、組織学的繊維化、性、飲酒歴、IFN 治療効果を因子として用いた発癌に関するハザード比を見ると A+B 群は C+D 群より有意に低かった。(ハザード比: 0.27; 信頼区間 0.08-0.98;  $p = 0.046$ )。これらの結果より、無効群に比べ生化学的持続著効でも肝炎の進行および発癌が有意に抑制されていることが明らかとなった。

#### 論文審査結果の要旨

本研究はインターフェロン治療後のC型慢性肝炎252症例をウイルス学的持続著効群、生化学的持続著効かつウイルス学的無効群、不完全著効群および無効群の4群に分類し、インターフェロン治療後平均4.2年の期間において、肝機能検査値や肝炎の進行度および発癌率を観察した。その結果、無効群に比べ生化学的持続著効群でも肝炎の進行や発癌が有意に抑制されていることが明らかとなった。類似の結果は、他の研究者からも報告されているが、岡山大学医学部附属病院を受診した症例により結論を導き出したものとして価値ある業績であると認める。

よって、本研究者は博士 (医学) の学位を得る資格があると認める。